

## 【Mandatory Altitude って Cancel できるの! ?】

### 1. 計器進入方式に公示された高度は高度制限ではない

Vol.024 では、計器進入方式に公示された高度を高度制限と解釈したために発生した不具合事象を紹介し、AIP では「高度」と「高度制限」の用語が使い分けられ、「計器進入方式に公示された高度には高度制限の定義が適用されず常に有効である」ことを解説しました。

### 2. 新千歳 ILS Z RWY01R に公示された高度の運用

RJCC ILS Z RWY01R の YOTEI (D15) に公示された高度 (Mandatory 2000ft) も前述のとおり高度制限ではなく常に有効です。そのため管制官には当該高度を無効にする権限はありません。

しかし、実際の運用では降下中の減速指示等によりパスが高くなり、YOTEI を 2000ft で通過できないため、パイロットからのリクエストでキャンセルされ、規定と整合しない事例が報告されています。

2020 年度 北海道ブロック管制技術交流会議事録※には、本事案に関わる運航者からの意見に対する航空自衛隊千歳管制隊の回答(見解)が収録されています。

- YOTEI@2000ft は高度制限ではないため管制指示で無効にはできない。
- ILS Z RWY01R から ILS Y RWY01R への変更は一つの方法であるが、進入方式変更に伴う低高度での CDU 操作は、エラーを誘発するスレットになることも理解している。

またパイロットから YOTEI@2000ft のキャンセル要求が後を絶たないために、対応に苦慮されていることも言及されています。

### 3. AIP の記述に見られるパイロットの対応のヒント

YOTEI@2000ft に従うことができない場合のパイロットの対応のヒントは AIP-Japan にあります。

AIP-Japan ENR 1.6-1.4.1.3

進入許可が発出された後、パイロットは当該計器進入方式に会合するまでの間、管制官から指示された高度を維持するものとする。また、当該方式における全ての高度及び速度に従わなければならない。当該方式に従うことができない場合は、速やかに管制官にその旨通報するものとする。

つまり、YOTEI@2000ft は高度制限ではないのでキャンセルを要求するのではなく、YOTEI を 2000ft で

通過できないということを速やかに通報することがポイントです。

**PILOT**: “Unable to cross YOTEI at 2000”

### 4. 管制官の対応は・・・

“Unable to cross YOTEI at 2000” の通報に対する管制官の対応は、自衛隊機の帰投状況に応じた間隔設定のための管制官判断になるためパイロットが言及することではありませんが以下の対応が予想されます。

Vector to YOTEI (自衛隊機との間隔設定が必要)

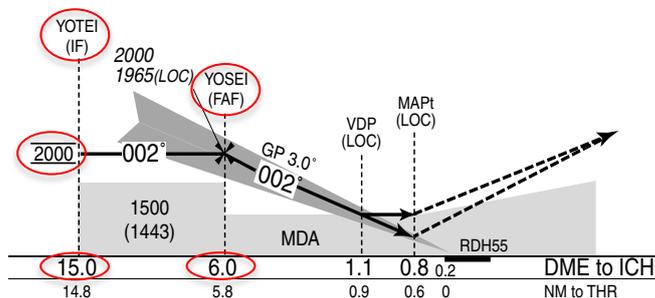
YOTEI@2000ft を満足できるように、誘導目標を YOTEI にしたレーダーベクターを開始する。この場合、多少ワイドベクターになることも予想されます。

Vector to Final (自衛隊機との間隔設定は不要)

誘導目標を FINAL にしたレーダーベクターを開始する。この場合、通常 YOSEI (D6) 手前 1NM のアプローチゲート (D7) を基準として最終進入コースへ誘導されます。

### 5. パイロットが知っておきたいこと

- 計器進入方式に公示された高度は高度制限ではなく、常に有効である。そのため管制官には当該高度を無効にする権限がないことに留意する。
- パイロットは計器進入方式に公示された高度に従うことができない場合、当該高度を無効にする旨を要求するのではなく、従うことができないことを通報する。



この「ATC再発見 *Radio Telephony Meeting*」は、JAPAATS 委員会と ATCAJ 技術委員会が参加している R/T Meeting で討議されたテーマを共有して、「安全で効率の良い運航と航空管制」のために発行しています。